

大阪・関西万博に関する関係者会合

1. 日 時：2023年8月31日（木）15：50～16：15

2. 場 所：官 邸

3. 議事次第：

（1）大阪・関西万博の課題について

（2）意見交換

4. 資料

資料1：大阪・関西万博におけるパビリオン建設の状況

資料2：大阪・関西万博に関する課題と対応方針

5. 出席者

【政府】

岸田 文雄	内閣総理大臣
松野 博一	内閣官房長官
斉藤 鉄夫	国土交通大臣
西村 康稔	経済産業大臣
岡田 直樹	国際博覧会担当大臣
山田 賢司	外務副大臣
井上 貴博	財務副大臣
木原 誠二	内閣官房副長官
磯崎 仁彦	内閣官房副長官
栗生 俊一	内閣官房副長官

【地元自治体】

吉村 洋文	大阪府知事
横山 英幸	大阪市長

【経済界】

十倉 雅和	経団連会長・日本国際博覧会協会会長（代表理事）
松本 正義	関経連会長

【日本国際博覧会協会】

石毛 博行	事務総長
-------	------

【事務局】

茂木 正	商務・サービス審議官
------	------------

大阪・関西万博における パビリオン建設の状況

令和 5 年 8 月 31 日
内閣官房
経済産業省

1. 会場建設及びパビリオン建設の全体像

(1) 基盤インフラ/工事環境： 工事期間中の車両混雑や上下水・電気供給など**施工環境整備が課題。**

(2) 主要建築物： 建設事業者は決定。資材価格高騰・人手不足の中、内外装・展示を着実に進める必要。

①迎賓館、催事場等、②民間パビリオン/自治体館、③日本政府館 など

(3) 海外パビリオン：

①協会が建設する形式(約100か国)：参加国が内外装・展示を円滑に進めるための支援が必要。

②参加国が建設する形式(約50か国)：**楽観視できない状況。早急に参加国・建設事業者と調整が必要。**

②参加国が建設する形式の建物の検討状況

○パビリオンの建設事業者が決定：10か国程度
※この他、基本構造は協会、内外装等は自国で行う建築方式(所謂タイプX)に関心を持つ国あり。

○依然として、楽観できる状況ではなく、引き続き、参加国と建設事業者の間に立って調整を実施。

- ・参加国と建設事業者の交渉妥結まで伴走
- ・参加国に対する支援策(タイプX)活用の意向確認
- ・パビリオンの施工環境整備の実施



(参考) パビリオンのイメージ

テーマ館や民間パビリオン等：

<テーマ館（福岡館）>



<民間パビリオン（Panasonic）>



タイプA：参加国が建物の建設から展示まで一貫して行うタイプ

<ベルギー館>



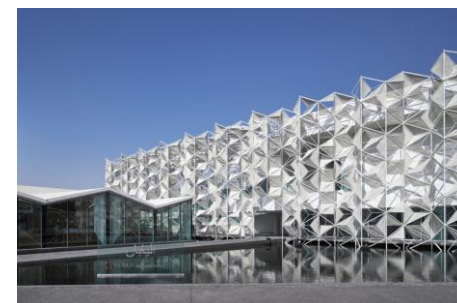
A rendering of the Belgian Pavilion for the 2025 World Expo in Osaka. Credit: Belexpo

<イタリア館>



(参考) 躯体をシンプルにした例：

<ドバイ万博日本館>



タイプX：協会が建設する基本構造に内装や外装等は自国で行う建築方式（タイプAの一類型）

躯体を協会が建設することにより、参加国が外装や内部の展示にリソースを集中して取り組むことができる。躯体をシンプルにして外装に注力する本手法は、過去にもドバイ万博の日本館や愛知万博の米
国館でも使われた方式であり、評価されているパビリオンにも採用。



1. 海外パビリオンの建設の遅れ

- 海外パビリオンについては、建設事業者が決定した国は拡大しており、タイプXやCへの移行を考える国も増えているが、建設事業者の絞り込みが進んでいる国については交渉妥結に向けて個別伴走支援を強化するほか、意向が決まっていない国に対しては対応方針決定を促す。
- タイプXを担う建設事業者に対しては、段階的な発注を進める。

2. 建設費の高騰

- これまで基盤インフラの整備などの会場建設費については、1850億円に収めるべく最大限の努力をしているところ。一方で、今般の資材価格や労務費の高騰等の影響を踏まえ、増額の懸念が高まっていることは事実であり、改めて、会場建設費の精査を行う。
- 海外パビリオンの建設については、参加国に対して、予算増やデザインの簡素化を促す働きかけを続けるとともに、後述の施工環境整備を進め、建設事業者が受注しやすい環境を整える。

3. 建設全体を円滑に進めるための施工環境整備

- 建設の本格化に伴い、建設現場の環境整備は急務。例えば、現場のアクセス性の改善やバックヤードの確保、現場作業に従事する方々の食事や休憩をする場所の提供、現場作業を円滑にするための給水や電気などインフラ改善に関する要望をいただいている。これらの課題に対して、引き続き円滑に建設が進むよう、関係省庁、博覧会協会、府市を含む関係者が連携し、速やかに環境整備をしっかりと整えていく。
- 設備や内外装、展示の工事についても、円滑な実施が確保されるように対応する。

4. 安全で円滑な運営

- 大阪・関西万博の来場者の安全確保は、万博成功に向けて最も基本的かつ重要なことであり、インフラともいえるもの。安全確保は、近年の警備事案や隣国の雑踏事故を踏まえ、万博の誘致当時よりも高い水準が求められている。
- こうした考え方の下、今回、大阪・関西万博の会場内の安全確保に万全を期する。

5. 万博のコンテンツの充実と魅力の発信

- これまで「未来社会の実験場」の具体化と日本全国における万博メリットの享受に向け、「2025年大阪・関西万博アクションプラン」を策定し、関係府省が取組を進めているところ。
- 万博成功のカギはコンテンツの充実。空飛ぶクルマなどのアクションプランの深掘りなどを通して、テーマ館、パビリオン、催事イベントなど、より魅力あるコンテンツに仕上げていく。
- また、これまで以上に万博をPRし機運を高め、前売り券をはじめチケットの販売促進に取り組む。

6. 博覧会協会の人的基盤の強化

- 博覧会協会において、よりスピード感をもって着実に進めていくためには、関係省庁の協力のもと、博覧会協会の抜本的な体制強化と体質の改善を行う。
- また、より正確かつ迅速な広報を行うため、今後、週一で博覧会協会副事務総長が記者懇談会等、月一で事務総長が記者会見を行うこととしているが、引き続き丁寧でわかりやすい広報を通じて機運を高める。